

事業活動報告

成田駅前スタジイ樹勢診断研修会

技術委員会委員長 大木一男

1. はじめに

平成 21 年 10 月 9 日（金）9 時から 17 時まで企画・事業委員会と技術委員会の共催で、JR 成田駅前スタジイ（写真 1）の樹木診断研修会を行った。調査は成田市から NPO 法人樹の生命を守る会が受託した業務であったので成田市の担当者の了解を得、研修を兼ねて行った。8 月 23 日の習志野での研修会の実践という意味も含んだ研修会であったが、平日であったためか 5 名の参加者であった。

2. 樹勢診断調査

駅前ということもあり、成田市担当者・JR 成田駅・成田駅保線係に樹木調査を行う連絡を取り開始した。樹木調査範囲をバリケードで囲い（写真 2）調査項目等の説明をした後、役割分担をして行った。

駅前再開発予定地にあるが「不動の椎」と言われ親しまれている樹木であるため、移植できるかも含めての調査となった。樹木の概況樹勢調査及び土壌調査を平面図や立面図を描きながら行い（写真 3）調査後に全員で樹勢等について話し合った。また移植前に必要な作業、根回し、移植方法等についても話し合った。現場でわからない事項については、成田市図書館にいき学芸員の方に文献を紹介していただき、近くのおばあさんにも話を聞き、また成田市広報のバックナンバーを調べ成田駅にも伺った。

「不動の椎」と呼ばれお不動様の分身と崇められたからこそ、周囲の環境が変化する毎に徐々に弱ってきたが伐採されることがなかったと考えられる。衰退の一途をたどってきた「不動の椎」であるが今回の樹木調査によ

りわかったことを基礎とし移植も成功させなければならない。なお調査報告書は高野樹木医がまとめ、成田市担当課に提出した。



（写真 1．調査樹木全景：主幹が枯死寸前でひこばえが生長している。ひこばえも枝が枯れててんぐ巣病が発生している。根系域も著しく狭められている。）



（写真 2．樹木調査状況：バリケードで囲い各自担当して調査を行っている。）



（写真 3．土壌硬度調査状況：山砂の盛土で腐植はなく、コンクリートガラが多く混じった構造であるため、根の発生が悪く土壌硬度もバラバラである。）